

地区スローガン：「ロータリーから千葉を元気に」
会長方針：「温かいクラブ・活気のあるクラブ・調和のとれたクラブ」

国際ロータリー第2790地区 第3グループ

千葉西ロータリークラブ

Rotary Club of Chiba-West

WEEKLY COMMUNICATION

創立 1976年1月20日 承認 1976年2月25日
会長 野口アキ子 幹事 飯高喜代志
例会場 千葉スカイウィンドウズ 東天紅 センシティタワー23階
TEL 043-238-5555
例会日 毎週火曜日 12:30~
事務局 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階
TEL 043-245-3202 FAX 043-245-7522
E-mail : chibawestrc@wrpc.co.jp
URL : http://www.chibawest-rc.net/



■ 会長挨拶 / 野口アキ子 会長

桜の花もほころび日増しに春の足音が聞こえてくる今日この頃です。会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より、ロータリークラブの運営に多大なるご尽力を賜り感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスが世界中に広がり拡大する中、感染拡大予防措置として3月の例会、4月第1例会と定款第7条第1節(d)(3)により取消を行い暫く会員の皆様とお会いできない寂しい日々が続いております。1日でも早く終息を願う気持ちの毎日です。会員の皆様も報道関係にてご存知の事と思いますが3月11日に世界保健機構(WHO)が「パンデミック」として最大限の注意を世界各国に呼びかけています。そして、3月23日世界保健機構(WHO)に報告のあった世界の新型コロナウイルスの感染者数が30万人を超えたと発表されて、2日後の25日には42万人に上がり、死亡された方は1万9千人と拡大は続いております。3月27日の時点で感染者は46万人を超え、死亡された方は2万人を超えました。3月23日時点の公式集計によると、地域別では欧州の感染者が最も多く、イタリアやスペイン、ドイツなどで感染拡大が続いているそうです。米国でも感染拡大のペースが速まっているとの事でハワイ州ホノルルでは入国と同時に2週間隔離を余儀なくされています。こうして、「パンデミック 感染症の世界的な大流行」が加速しています。

このような状況の中、2790地区諸岡靖彦ガバナーはガバナー月信の号外により、地区ロータリーの活動にあたって3月中の例会の一部、もしくはすべてを休会としています。4月開催予定の他地区大会は中止の決定が相次ぎ、次年度に向けた三大セミナーの実施が延期や柔軟な方法でも考えられています。

今回のような非常、例外、想定以上の事態に諸岡ガバナーはロータリークラブの例会や諸会議、委員会の会合、連絡手段を思い切って変えてみましょうと指針されております。

これを受けて、千葉西ロータリークラブの今後の会合のあり方として、連絡手段にLINE等ソーシャルネットワークサービス(SNS)の更なる活用、また例会運営に少人数制の開催も視野に入れて考え、会員の皆様と集う日を楽しみにしたいと思います。

3月26日、東京都の小池知事も新型コロナウイルス感染者数が急増していることを受け、首都圏(神奈川県、埼玉県、千葉県、山梨県)の知事とテレビ会議を開き、感染者の爆発的な増加やロックダウンの回避に向け、連携して臨むことで進められています。各県からは1日に270万人以上が都を訪れており感染拡大を防ぐためには流入を止める必要があると判断されております。

そして、ビジネスも公共機関の活動も人が集まり交流する場、また不要不急の外出も自粛される事を呼びかけております。



■ ワンポイントロータリー ロータリーの友誌 3月号紹介

この3月号が配布される月初例会が、世界的な波紋が広がっている、新型コロナウイルス肺炎感染症防止対策により、急遽、感染予防の国策として不要不急の外出禁止が推奨されました。このために、3月のクラブ例会が全て中止されることになりましたので、ロータリーの友誌が手にできなく、急遽電子版をインターネットで読むことになり、拡大したり工夫を重ねて読んでいます。この様子は全国のロータリアンが同じ行動を執ることになり、日本中のロータリアンがパソコンやスマートフォンで読書する、ロータリーの友3月号になりました。将来的には書籍の発行部数が減らされていくのでしょうか・・・、そんな思いから、いずれそんな議論が広まる可能性があることを示唆される実感をしております。

表紙 + 横 49P) 今月号の表紙は日本人で初めて国際ロータリー会長に就任した東京クラブの東ヶ崎潔さんです。第2次世界大戦御時代はクラブ解散し、水曜会として活動を経験されており、日本基督教大学の創立メンバーの一人でもあります。

横 7P) 3月は水と衛生月間ということで、特集では、「持続可能性のある支援とは」が組まれて、様々な水環境のデータが紹介されている。①「データで見る世界の現状」としては、世界人口76億人のうち71%が安全管理された水を飲めるが、2%は池や川の水を直接利用しているそうだ。②「アフリカの最新動向」としては、糞便で汚れた飲料水を利用しているのは18億人もいることに驚かされる。サハラ砂漠以南のアフリカ諸国では、手動ポンプの35%が故障で利用されていないそうで、メンテナンスの維持管理の支援が求められている。最近になって民間のセクターが主導して、水維持管理運営に地域の企業を連携させて、手漕ぎのロープポンプの製造を始めたり、民間業者を育成している。維持管理のメンテナンス事業を含めて、政府と民間企業が協力しあって、持続可能な維持管理の体制が構築されているそうだ。開発途上国においての今後の水と衛生分野は、地域住民による維持管理から、地域に属する様々な団体企業と共同して活動することが求められている。

横 10P) 「ロータリークラブの活動」として、広島北 RC と広島陵北 RC が行っている、「水の安定供給で村へ若者を呼び戻し発展に寄与したい」は、姉妹クラブである台湾のクラブと協力し、R 財団のグローバル補助金制度を活用させた、先住民居住地の水資源設備関連を企画実施、地元の行政や大学と RC を巻き込んだ、大掛かりな設備を構築させた。この取水工事により安定した水資源確保ができたことで、今後は近隣の町にも送水や支援ができることにより、若者の定着と産業の発展を望み、将来は観光開発にまで夢が広がっているそうだ。

横 12P) 「ネパール地震被災地で衛生教育」は、神崎、佐賀南、佐賀西、大村の各 RC が協力して、2015 年にあったネパール大地震の支援です。被災された地元の RC からの要請をうけて、4RC がグローバル補助金を申請し、共同事業としてトイレ、手洗い場、浄水に関する設備工事を設置したそうです。あえて、補助金の一部を教育資金にあてて、衛生教育として自発的啓発運動を促して、住民が積極的に関与を深めることができるように、衛生習慣の是正を進めた指導を進めていくようですが、爪切りや手洗い等、住民の意識も高まり自主的に管理をしてくれているそうです。

横 14P) 「40 年以上支援活動を継続」は、鴨島 RC がフィリピンでの活動内容は、太平洋戦争時の日本兵が帰還後にロータリアンになって、そのご縁がつながり姉妹クラブの締結が行われたそうです。長い間、姉妹クラブ活動の継続がされてきましたが、最近では山岳民族への飲料水の支援をしています。湧水を貯水するタンクを設営して、源流から部落までの水道管理設工事から貯水タンクまでの支援活動が喜ばれているようです。工事の支援のために訪問するために、姉妹クラブ同士の国際交流が一層深まっているそうです。

横 16P) 今年度の規定審議会で決定されましたが、国際ロータリーは、ロータリークラブとローターアクトクラブの連合体でありますので、特にローターアクトクラブの紹介がされました。北から南までの各地区にあるローターアクトの活躍ぶりですが、特に驚いたことは、大阪西南 RAC の活動は、月経カップを普及させることで、その発想に驚かされました。

横 18P) 次年度 RI 会長である、ドイツ人ホルガー・クナークさんの紹介ですが、とっても人懐っこい方の方ようです。鼻眼鏡でノーネクタイ姿の会長エレクトがにこやか笑顔の写真が素敵です。ドイツ人の RI 会長就任は初めてであります。非常にまじめで謙虚な方です。考え方が東洋的です。次年度 RI 会長テーマは「ロータリーは機会の扉を開く」です。会長見解として、「ロータリーがしかるべき運命を切り開くには、常に進化し、時には革命家にならなければなりません。」または「未来に備えるために、ロータリーは変革し続け、若者の力を信じなければなりません」更には、「ロータリアンになる年齢にふさわしくない年齢はない」などクナーク流の金言が披露されている。テーマネクタイは国際ロータリーの資金源であると云い訳の説明がドイツ人らしい。ホームクラブ名は、ヘルツォークトゥム・ラウエンブルグ・メルン・ロータリークラブで、歴史があるクラブであるようです。ドイツでのロータリー活動ですが、ドイツのロータリーは中核的価値観をはじめ、それ以上に友情と親睦、高潔性と倫理を大切にしていますから、非常に日本的で嬉しく思います。日常の奉仕活動の源泉が親睦であることと、会員選考が慎重に行われるために、特段の手段をすることなく会員維持率が高いそうです。何事も一人ではできない世の中で、情熱を傾けてくれる人がありがたく、とても尊敬できるし大切にしていると貴重な考え方の披露です。今後のロータリーは若いも若き会員も、歴史のあるクラブも若いクラブも皆同様に、誰ももがその会員にあった居場所をみつけて楽しむことを推奨しています。更には年二回ほど戦略計画会議を開いて、クラブの未来に関して真剣に考えて欲しいと希望しています。これからの時代は若い会員と女性会員を信用し頼りにしながら、若きリーダーの育成に励んでいくことが大切と明言しています。大事なことは情熱とリーダーシップを持ちあわせた人材育成をしながら魅力あるクラブを目指すことだと指南してくれています。その為にも正直に誇りをもって草の根運動として、地道にロータリー運動を広めていくことが大事ですと述べています。

横 24P) パキスタンのポリオ根絶を支える旅は、チームポリオジャパンのメンバーである大和豊子さんが体験した、インドとパキスタンへのポリオワクチン投与の奉仕活動です。ポリオ感染は、まひ患者が一人いれば周りには 100 名程度の無ウイルス排泄者がいるそうです。

この集団に対して、できるだけ早くワクチンを投与するためには、一斉に投与日を決めて接種することが効果的だと考えて、全国予防接種日(NIDs)を設定しました。この日に5歳以下の子供たち一斉にワクチン投与を行うときに、ボランティアとして生ワクチンを内服させるキャンペーン活動に世界中のロータリアンが支援しています。

チームポリオジャパンの活動は 2001 年からインドに行ってから継続され、各地区から自主的に集まったボランティアが投与や啓蒙の活動をしています。現在野生株のポリオが発症されているのはアフガニスタンとパキスタンの二か国だが、まだまだ調査ができない地域もあり、これからも地道な投与の活動が必要です。今回初めて参加したチームメンバーが、「人の心を動かすのはほんのわずかな経験からです」との一言が至言です。

横 50P)「投稿をお待ちしています!」、我々会員もできるだけ投稿する機会を多く作りましょう。個人は勿論ですが、各委員会別やクラブ広報 IT ロータリー情報雑誌委員会がリードして、継続した投稿ができるように奮起に期待しています。

縦 4 P) 変貌する自然災害と縮災対策として、京都大学の河田恵昭名誉教授のレポートが興味あり、理解を深めたいものです。これからの時代は洪水氾濫、土砂災害、地震などの自然災害が増えるそうです。特に雨の降り方が異常で、40 年間の気象庁アメダス記録を調べると、一般的な町の下水がパンクするほど雨量が増えています。土砂災害も発生件数が 3.4 倍に増えていて、激甚化する傾向です。被害の範囲も北海道から沖縄までと広域災害になり、各地で断水、電話不通、鉄道や道路の寸断がありライフラインに被害が出ています。特徴になっていることは、同じ川でも上流から下流の間で様々な形態の水害が発生しています。

- ①土流発生 ②砂防ダム決壊 ③ため池決壊 ④土砂や流木が橋梁で起こす堆積氾濫
- ⑤異常時洪水対策のダム放流 ⑥下流の水が上流に逆流する背水現象 ⑦異常水量増加

など、複雑な形で連淹災害が起こるようになったそうです。これに対して避難対策が不十分ですが、日頃から事前に考え準備をすることが大切です。家族の安否確認は普段から準備することが大事ですし、何よりも水や食料の確保も大切なことです。被災する前から被災時の災害を極力少なくするために、官民協力して減災対策の工夫をすること。その為にも何度も何度もワークショップを重ねて話し合いの中から良いアイデアを生みだしていくことだと指摘しています。今後、地球温暖化が進む中、風水害が増大していく傾向で、事後対策として被害を緩和する方法が重要視され、災害マネジメントの力量が望まれます。避難する判断基準も人間社会では様々な価値観があるためと、自治体により避難勧告と指示がバラバラであり避難プログラムが役にたちません。防災訓練から学ぶことが大事で、訓練で失敗することが大事だといひます。被災をうけた今の不幸な経験は、必ず将来に役立てることでレポートを結んでいる。

縦 9P) この人を尋ねては、長井中央クラブ会員（有）山形工務の梅津雄治さん。けん玉の製造業を営んでいる方で、とても懐かしい思い出を味わいながら読むことができました。親子代々継承されたけん玉づくりをしているそうで、今では長井市主催のけん玉チャレンジのプロジェクトもできて、今では国際競技会も数多くあり活発に広まっているそうです



本日の出席	総数	対象者	出席	欠席	出席率	ニ コ ニ コ B O X	合計	次 週 の プ ロ グ ラ ム
	名	名	名	名	%		円	
前々回修正	メーキャップ		出席	欠席	出席率		累計	
			名	名	%		円	